Live to learn, learn to live

白浜 千春
横浜市立東永谷中学校

◆担当教科：英語　◆実践教科：英語　学活　道徳　◆時間数：１２時間
◆対象学年：中学2年生　◆対象人数：１５９名

◆指導案

○実践の目的

- 普段当たり前と思っている自分たちの生活を見つめ直すきっかけを作る。また、身近なことから世界と繋がっていることを実感することを通して学ぶ。
- 多文化共生教育を様々な授業の中に取り込むことで、学ぶことの楽しさや大切さを考える。
- 個人の尊厳、人権の尊重、自由と責任などを正しく理解する子どもを育てる。
- 地域社会や横浜のために、自らができることを考え実践する子どもを育てる。

○授業の構成

時限	テーマ･ねらい	方法･内容	使用教材
1 学活	職業インタビュー発表会 ねらい：カンボジアに興味をもたせる	⑴ 職業インタビューの発表 ⑵ テレビに写真を映し、青年海外協力隊の小松さんの紹介。	⑴ カンボジアで撮った写真おもちゃ、ノート、教科書 ⑵ 大型テレビ
2、3 英語	将来の夢を語ろう ねらい：夢をもつことの大切さをカンボジアの子を通して考える	⑴ 人気の職業ランキングをみせどの国か考える。 ⑵ カンボジアの基本的な情報を知る。 ⑶ カンボジア友好学園の生徒の夢を英語で紹介。 ⑷ 自分の将来の夢について英語で書いて、発表する。	⑴ 英語の教科書 ⑵ パワーポイント ⑶ カンボジアの写真 CD ⑷ ワークシート ⑸ Google earth
4 道徳	ランキング ―子どもの権利条約―	⑴ 子どもの権利条約とは？ ⑵ ランキングにして発表 ⑶ 国際協力を考える	⑴ 写真　ハゲワシと少女 ⑵ ワークシート ⑶ 道徳の本
5 道徳	Jica 横浜　坂田さんの講演	カンボジアに同行した坂田さんから国際協力について話を聞く	⑴ パワーポイント
6、7 英語	世界がもし100人の村だったら ねらい：ワークショップをとおして、世界の現状について体験しながら学び、多様性を尊重させる	⑴ 部屋の四隅でアイスブレーキングをする。 ⑵ それぞれの役割カードでグループをつくっていく。 ⑶ 識字について。 ⑷ 富の分配　お茶をわける ⑸ 世界が100の村だったらを読んで、好きな段落を選ぶ。 ⑹ 同じ場所を選んだ人と、意見交換をする。 ⑺ まとめ	⑴ 役割カード ⑵ 地図 ⑶ 水、ポカリ、ソーダ ⑷ お茶　1クラス2リットル

8 道徳	無人島ゲーム ねらい：援助とは何か考える	(1) 無人島に何を持って行くか個人で10個考える。 (2) グループをつくり9個に絞る (3) 発表、まとめ	(1) 無人島の写真 (2) A3ワークシート
9 道徳	地球の食卓	(1) フォトランゲージの手法を使って、食、環境について考える	(1) 地球の食卓 (2) ワークシート
10、11 英語	地雷ではなく花をください (2月実施予定)	(1) フォトランゲージで導入。 (2) 英文で読む。	(1) Danger の看板 (2) カンボジアの写真 DVD
12 英語	未来への一歩！ (2月実施予定)	これまで一連の学習を通して、持続可能な社会の実現に向けて、できることをかんがえよう	(1) ワークシート (2) ランキングシート

◆ **授業の詳細**

1時限目：職業インタビュー発表会

夏休み中に「中学校の時の進路決定」や「人生で大切にしている言葉」などのテーマで家族や親戚などの身近な方にインタビューをしてきたものを発表する。

カンボジアでいろいろな方にインタビューしてきたことを伝え、青年海外協力隊としてカンボジアにいっている横浜市の小学校教諭小松さんの事を紹介した。カンボジアの学校はどんな様子なのか予想させた。日本の机や、パソコン室をみせると、「こんな所もあるんだ」と感心していた。今は事情があって電気が通ってないから使えないことも驚きのようだった。私がコオロギを食べている写真をみて、おいしかったの！？食べてみたい！などと楽しいイメージをまずはもって貰えた。

2．3時限目：将来の夢を語ろう

日本とアメリカの人気職業ランキングをみせ、どちらが日本かクイズを出す。カンボジアでは、どんな国で職業があるのかイメージを挙げさせた。そしてインターネットで Google earth 使いながら、自分たちの学校を出発してカンボジアまでズームイン、ズームアウトしながら何度か見比べた。操作をするたびに「おー」と歓声があがり、「自分の家もみえるかな」などと興味津々のようだった。パワーポイントを使いながら、カンボジアの基本的な情報と、カンボジア友好学園の生徒の夢、IKTT 森本さんの夢を簡単な英語して紹介した。日本語の解説をすくなくして、多くの写真を見せながら説明すると、うなずきながら聞き入っていた。その後、「なりたい職業」「そのために努力すること」を英語で夢について英作文し発表させた。なりたい職業がないと言う生徒がでるのではないかと予想していたが、カンボジアの子どもたちの夢に触発されたのか一生懸命書いていた。

生徒の感想

①カンボジアと日本を見比べてみて気づいたことは？

・曲がり道があまりない。　・学校が大きい建物がすくない。　・あまり変わらない。木が多い。道が茶色い

・思ったより家などがあった、自然が多い　やねがカラフル

・想像していたのとは全く違っていて、日本とそんなに変わりませんでした。ただ、日本と比べて違うのは全体として緑がすごく多いなという印象でした。また住宅密集地でも屋根の色がカンボジアの方があざやかな感じがしました。（日本の方が灰色が多いのはコンクリート）

②カンボジアの子どもたちの夢について、どう思いましたか？

・カンボジアの子どもの夢はとてもすなおでみんなそれぞれ夢がありいいなぁと思った。

・困っている人のため、国のためなど同じ子どもとは思えない理由が多くて立派だと思った。

・日本の子どもたちと比べてあまり変わりませんが、政治家になりたい、医者になりたい、エンジニアになりたいなど、自分ではなくだれかを一番に考えたりとすごく未来に希望を持ち、カンボジアが大好きなんだとわかりました。

・夢はだいたい日本と同じだけと理由が国のためっていうのが自分の国が大好きなんだと思った。

・カンボジアの子どもたちはとてもキラキラしているように見えた。

４時限目：ランキング―子どもの権利条約―

アイスブレーキングで２人３人４人とこちらが指示した人数のグループになって、お互いのことをもっと知る活動をする。「あなたの好きな食べ物」「欲しい物」「あなたのクラスに知られていない特技は？」など毎回違うメンバーや男女混合でこれらのテーマで意見交換させた。

「ハゲワシと少女」の写真をみせる。自分だったら写真を撮るより助けるという意見が多くあった。写真の詳細をすでに知っている生徒がいたので意見を出させた。

子どもの権利条約の紹介。その中から６つ選びピラミッド型のランキングを行うため、班になって話し合いをした。だんだん白熱する班や意見が出るたびにころころ入れ替える班、それぞれに投票させて決める班、カテゴリー（自分たちではどうにもならない権利、自分たちで守れる権利）にわけて理論立てて決める班などがあった。その後発表させた。だれが発表するが押しつけ合う班もあったが、しっかりとした意見が言えた。

その後、道徳の本で、犬飼道子さんがかいている国際貢献についての話を読んだ。難民キャンプで現実主義をつらぬいてほんの少しでも役に立てることを考え行動することの大切さを説いていた。抽象的な善意ではなく、例えば部屋のごみをひろうというようなことから始めなさいという具体的な内容だ。最後にこの時間に考えたことをまとめる。

生徒の感想

・人それぞれにいろいろ考えがあるとわかった。それぞれの理由で納得できるものがあった。

・普段自分たちは友人や豊かな環境や家族にめぐまれていて、それが普通でない人もいるというのを知っていながら何もしていなかった。これをキッカケに、少しは行動にうつしてみようと思った。

・自分たちじゃどうしようもできないことが起きているっているのはすごく悲しいと思った。

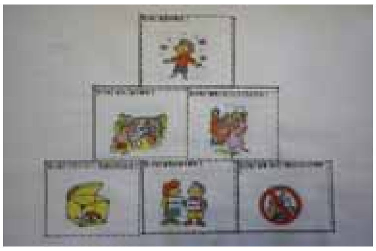
・いつも自分が「かわいそうだな」で終わっていたことを、今回やってそれだけではだめなのかと思い知らされました。

・共生の思考とかすごく難しいけれど、今回いろんな人と話してみて、何気ない会話もすごく幸せで私たちにすべきことというのが見えてきたような気がしました。国境はあってもつながりは境はないと思います。

教師の意見

（学年のほかの3クラスの担任の先生にも同じ内容で授業をしてもらった。）

・道徳は、読み物を読んでワークシートに書く形が多かったけれど、このように話し合わせる活動は生徒が楽しそうにしていて良かった。



５時限目：**Jica 横浜　坂田蔵人さんの講演**

Jica 横浜から坂田さんに来校していただき、「国際協力って？」というテーマで話していただいた。学年１５９人をホールに集め、プロジェクターをつかって話を聞き、協力の現場での話を聞いた。

６時限目：**世界がもし100人の村だったら　その1**

６時限目は、本校に勤務しているカナダ人の ALT と一緒に行った。活動内容を考え図書室をつかい、椅子を輪にならべて行うことにした。授業の説明を ALT にするにあたって、下記の様な授業案を渡し、授業のねらいを説明しサポートをお願いした。積極的に授業に入って本人自身がとても楽しいと言っていた。「このような形は初めてであったが学びの多いものだった」と楽しんで取り組めたものだったようだ。（↓「世界がもし１００人の村だったら」ALT に渡した英語の指導案）

	Activity	Teachers	Students
Warm up 5min	Greeting Ice breaking (the four corners of a room)	When is your birthday? (What do you want for Christmas present?) What is your blood type?	Go to each corner. Talk with friends.
Activity 35min	If the world were a village of 100 people … simulation 1 Men/women 2 Children/Adults/elders 3 Greeting in various words 4 Can you read this? 5 Share the wealt 4 groups Rich　8people 1.6L Middle high 12 people 250 ml Low 12 people 100ml Poor　8 people 50 ml	52% Women　48% Men 30%children-stand up 60%adults-stand up 10%elders- sit down (In Japan 15%-68%-17%) Show them a words Some of them can't read. (◎child) Choose/ water-poison-medicine	Make groups in order to the category written in the cards.
Conclusion 10 min	Reading "If the world were a village of 100 people."	Give students work sheets.	Read the prints

授業の手順はワークショップ版にあるものから取捨選択し、①世界の男女の比率②年齢比③世界のことばであいさつ④識字率についてすべてグループに分かれ、その都度“ What do you think? ”と聞きながら進めた。それぞれの役割になりきって、”I'm happy.””I'm surprised.”などと言いながら楽しそうに活動していた。最後に富の分配をし、２リットルのお茶を富だとすると、どんな割合で世界の富裕層や貧困層に分配されるのか、予想させた。そして、答えを言わずにお茶をわけていくと。さっきまでは楽しそうになりきって演技をしていた生徒も「少ない！ずるい」「わけてー」と本気になって落ち込んでいたり、「多すぎる」「飲みきれない」という富裕層に非難があつまり、こっそりわけてもらおうとする生徒も出てきた。４クラス行うなかで、それぞれに違いがあり、多くてもわけずに飲んでしまうクラスと、分けてあげようとするクラスがあった。しかし、分けようとしたクラスも全員に平等にとはいかず、かえって不満がでるところもあり、興味深かった。ここから、世界の富と紛争について話すことができ、不満の声をあげた生徒もそうかと納得していた。

その後、世界が１００人の村だったらの英語版と日本語版を印刷したものを１～１８まで段落をふって配布し、目をとおした。改めて、この１時間のことを振り返り、それぞれに１００人村をよんで好きな段落か気になる段落、もしくは憤りを覚える段落を選んでくる課題を出した。

↑動き回ってグループを作っている様子

↑自分の気持ちを英語で言うシート

生徒の感想　**6時限目**

- **色々と衝撃的な事がわかりました。楽しくそして学びの多い授業でした。私は、やはりとても恵まれている環境で育ってるんだなぁと考えさせられました。**
- **人はそれぞれ違うものをもって生まれてくること、それはおもしろいことでもあり、悲しいことなのかなと思いました。みんな同じではつまらない。それぞれの特性があるからおもしろい。でもこの違いがときには「差別」うものにつながってしまうのかなと思いました。**
- **この本を読んだことがあるんですが、その時はあまり深い意味で感じ取っていなかったです。けれど今回、ゲーム形式のように英語を通じて学習していって世界の貧しい国のことについてしれました。**
- **思いやりや優しさで貧しい国への「シェア」が大切だと思いました。**
- **数字で%であらわすよりも実際に人でわかれた時のほうがわかりやすかったです。**
- **今日一番思ったのは、この現状を知ってどうすべきなのか考えることが大切なんだと思いました。**

７時限目：**もし世界が100人の村だったら　その2**

前回の授業の振り返りをし、自分が選んだ段落と同じ所を選んだ人を見つけグループを作る。選んだ理由をそれぞれ言ってグループの意見をまとめさせる。もし、一人しかいなかったら、一人になった者同士でグループになってもらう。（各クラスともに３～４人は一人だった。）各グループの意

見を発表。
「世界を１００人の村にしたら・・・」という所を選び、１００人にする事自体にムリがあるんじゃないか。という意見を出したグループがいた。そこから、１００人に凝縮してしまうと、確かに数字には反映されない少数派の人が多くいること、数字だけでは計れないことが多くあることを考えるきっかけにしてほしいという事を話した。自分が恵まれていて幸せだ。という感想や、そうでない人はかわいそう、で終わる感想が目立った。「富の分配の配分と同じように、豊かさも分配していいのか。」「豊かさとは何だろうか。」「日本は平和でよかったと話しているが、自分の近くに座っている友達同士、クラスメイト同士に目を向けると、私たちは違いをありのままに受け入れているだろうか。」「国や人種のカテゴリーに分けて理解することは１００人村をする中であまり疑問に思わずに活動した。しかし、その中には私たちの先入観があったのではないか。」「そして同じ日本人でも、おなじクラスメイトでも違いは多くあり、それを受け入れることをまず考えてみたらどうだろうか。」これはカンボジアで私が感じたことで、胸に引っかかっている思いだったため、難しいかと思ったが、生徒に考えるきっかけをと思い、１つ１つをゆっくり話した。
この話をしてから、もう一度１回目の感想の下に、２回目のこの授業の後の感想を書かせた。私は出来るだけ教科の中で多文化共生を取り込んだものを実践したいという思いから英語の授業で行ったが、この１００人村の授業は、道徳はもちろん学活や総合はたまたどんな教科においても内容を練れば実践できるのではないかと思う。

↓水・毒・薬のペットボトル

↓板書は全て紙を貼った

↓同じ段落を選び話し合う

生徒の感想　**7時限目**

- **文字が読めるだけで幸せ、周りにだれかがいるから幸せ、さらに生きているから幸せ。という普段考えないけれど、よく考えてみると当たり前のことが幸せなんだと思った。**
- **今から変わるためには子どもの教育を改善するべきだと思います。大人は考え方が変わる望みは少ないですが子どもは今から考え方をみにつけていきます。何が正しく何が悪いのかは、人間が決めることができるのだから、教育で世界は変わると思います。**
- **クラスの中でもこんなにたくさんの考えをもつ人がいるんだなと思います。この本と同じように、考えが違っても同じクラスの仲間として、理解してお互いに受け入れるのが大切だなと思いました。**
- **（世界がもし100人の村が）「きっと」で終わっているところも、未来は自分たちで変えられるんだという強いメッセージなのだろうと思いました。**
- **ぼくは、今日の授業を受け、水が十分にのめなく、栄養がたりない人がこんなに多いんだと初めて思いました。なぜ他の人はもっとこの人たちに支援をしないのだろうと思うと、それは僕たちがお茶をいっぱい飲んだのと同じように自分たちのことしか考えていないからだと思いました。ぼくたち先進国はもっと支援をするべきだなと思いました。そしていろいろな技術を伝えるべきだなと思いました。みんなと話をし、もっと人のことを考えたいなと思いました。**

８時限目：無人島ゲーム

５，６人のグループに分かれる。分け方はＪicaの開発者セミナーであったことを参考に、無人島の写真を切ったものを渡し、写真を完成させたもの同士がグループになる。無人島の絵や写真を示し、「この島にグループの人たちが長期間くらすことになりました。島には海、小川、森、動植物などのほかは何もありません。みんなで相談して、日本から持っていくもの10個を決めてください」と告げる。初めに、一人ひとりが自分ならこんなものを持っていくだろうと思うものをリストアップする。次に、グループで持っていくものを９個にしぼる。さらに、リストアップした９個を、「必要不可欠なもの（needs）」と「あればいいもの（wants）」に分類するように伝える。その理由も書き込んでいく。まとまったら発表をする。発表をしている班に「食べ物は腐っちゃうよ」「電気がないのにどうやってつかうの？」と多く質問が飛び交い、時間が来てしまった。５０分で終わらせるには、最初から選択肢を２０個に絞って選ばせても良かったかもしれない。ただ、「牛」や「ドラム管」など予想していない答えが自由に出せるおもしろさもあったようだ。まとめとして、その日の帰りの会で、何でも手に入る社会で（コンビニをもっていきたいという班がいくつもあった）本当に必要な物、あればいいものの区別について考えようということ。そして、カンボジアで見た光景で、電気が使えない中で電子ピアノが教室に山積みになている写真を見せ、本当に必要とされているところ（**ベーシック･ヒューマン･ニーズ**）に、適切な援助がされているかというと、そうではない実情が多くあることを教え援助を考えるきっかけとして欲しいと伝えた。

話し合い中の様子

発表を聞きながら賛否両論がでる

見やすくまとめられたシート

カンボジアで積まれた電子ピアノ

教師の意見

１２月２４日２時間目　道徳（２年生の４クラス共に担任の先生に同じ授業をしてもらった）

・無人島に期間がわからず、設定があれば良かった。
・時間が足りず、おとしどころがなく活動するだけで終わったが楽しくできた。
・今後もこのような活動的な道徳を行ってほしい。

9時限目：地球の食卓

世界の食糧事情について、写真をみながら考える。世界にはさまざまな食文化があることを知り、世界の人々の生活のあり方を学ぶ。食についての問題点や、身近な食料が世界とつながっていることに気づく。そして自分たちの食生活や、ライフスタイルについて考える。

1、国当てゲーム
グループに一枚ずつ一週間分の食料と家族、家が写っている写真を渡し、どこの国か考える。紙の周りに気づいたことを書き込んでいく。
2、発表
正解かどうかよりも、なぜそう考えたかが大切だという話をして発表させる。
3、同じ国の中のちがい
同じ国でもそれぞれに違いがある。2枚の写真を見比べて、それを生み出す背景を考える。

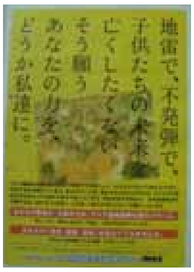
授業後それぞれ書き込んだ紙を廊下に掲示すると細かいところまでじーっと見ている生徒が多かった

10、11時限目:地雷ではなく花をください(2月実施予定)

事前にとったアンケートでは、カンボジアの国中に地雷がうまっていると考える生徒が多くいた。日本地雷処理を支援する会(JMAS)の活動の様子を写真を見せながら伝える。また、タイとの国境沿いにはまた地雷が残っている。なぜ地雷というものが未だに人々の生活を脅かしているのか、その背景をしる。

地雷ではなく花をくださいの英語　　　　　　　　　版をよみながら、そこから学んでほしいと考えている。

地雷撤去活動をしているクリスムーンさんを紹介する。



12時限目:未来への一歩!(2月実施予定)

これまでの一連の授業をとおしてのまとめとして振り返り、これからの未来を担う1人として自分たちに出来ることを考える。ランキングシートを使って、個々にレポートにまとめる。そして発表し、なぜそのような順番にしたのか理由も発表する。

援助にも「慈善型」「技術移転型」「参加型」などがあり、それぞれに良い点、課題点があることを学ぶ。そして、自分たちの行動や実践につなげていけるようなアイデアを出す。そして、持続可能な援助、豊かに生きるということについて意見交換させながら考えてい

く。

◆ **成果と課題**

７月にカンボジアに行ってからは、自分の中で消化できない２つの思いがあり、実践授業を行う上でどのように工夫して生徒に伝えようかとても悩んだ。１つは「援助とは何か」もう１つは「豊かさとは」という点だ。実践授業を行うにあたって、この２点は丁寧にすすめなければ、「募金をしてあげればいい」とか「自分たちは豊かで、そうでない人たちはかわいそう」という上から目線の結論に至ってしまう。それは一概に悪いとは限らないが、着地点をそこで終わらせずにもう一歩先のところ、自分たちがどう行動し、発信していけるかに設定したいと思った。

そこで「学ぶことの楽しさ」をテーマにして、まずは生徒が楽しく学べる授業、教師が授業をしながら楽しいと思えるものを実践しようと決めた。楽しいというのは、一過性のものではなく、もっと知りたいという知的好奇心を生み出すものや、話し合うその課程でお互いに発見があったりそれ自体を楽しいと思える授業、相手がいるから成り立つ授業にしたかった。

また、実践授業を行う上で、授業のタイプを２つに分けて準備した。１つは自分がカンボジアに行ったからこそ伝えられる生きた教材をつかった授業。これは主に英語と学活の授業で行った。もう一つは、そういった経験がなくとも開発教育の教材や手法をつかって出来る授業。これは、主に道徳で行い学年の各のクラスの担任に同じ教材を渡して行ってもらった。

事前事後研修で受けた開発教育セミナーで、初めて知った体験型学習をなんとか自分の向かい合っている生徒に受けさせたいと準備をするものの、こういった参加型は授業者というよりもファシリテーターとしての役割を求められ、不安な面が多くあった。自分が研修をうけながら感じた驚きや楽しさを、同じように生徒にも体験させたいという思いは強かったが、さまざまな手法をこころみながら授業を実践すると、生徒の反応よりも自分自身の進め方にとらわれ目の前の生徒を見失い、柔軟に生徒の生きた声に対応できなかったのではないかと反省しきりだった。時間に余裕がないために教師側が導きたい結論にもっていってしまったときもあった。様々なアプローチの仕方によって、引き出せる意見も変わってくるだろうし、生徒の受ける印象も決まってしまう。これを考えるのは苦しくもあり、期待感で胸が躍るものでもあった。

授業後に生徒の感想に目を通すと、生徒の真剣さや発想のおもしろさ、純粋さに、期待以上の成果があったと感じ取られたし、次はこうしようという希望が見えてきた。生徒がいきいきと取り組んでいて、また世界が１００人の村だったらの授業をしたいというリクエストが多く見受けられた。同じ道徳の授業を実践してもらった他の教師にも好評であった。基本的に、今年度の担当として学活と道徳の学年の担当をしていたので、カリキュラムを組み替えて開発教育を行ったのだが、変えることに対して好意的で、どんどんこのような機会を設けたいという学年の意向に後押しされた。授業参観にきていた保護者からも、このような形での授業をみたことがなく生徒が楽しそうでよかったと好意的な意見をいただいた。

年度初めにはカリキュラムが決まっているため、その流れの中で実践授業を組み込んでいったので、１２月までに全ての計画を終えられなかったが、生徒の実態にあわせて、あとの数時間も実践していけると思う。来年度最上級生になってからの実践では、より外へ向かって実際に行動に移せるような形にしていきたい。今回実践したことは、学校や地域が変わっても、そこの実態に合わせて実践していけるだろう。Jica を始め様々な関係者の方々、職場や生徒に感謝の気持ちでいっぱいである。英語科の教師として、さらに自分自身を身を奮い立たせ、英語とは、学ぶとは、その楽しさを生徒に伝えていけるように、これからも実践していきたい。

◆ **参考資料**

・新・ワークショップ版　世界がもし１００人の村だったら　開発教育協会
・世界がもし１００人の村だったら　完結編　池田香代子+マガジンハウス編
・写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン作成チーム　開発教育協会
・「援助」する前に考えよう　～参加型開発とＰＬＡがわかる本　開発教育協会
・開発教育・国際理解教育ハンドブック
・殺戮荒野からの生還　リベルタ出版
・世界ウルルン滞在記「命をかけた畑づくりに向井理が出会った」　TBS
・NEW　HORIZON　English Course２
・サニーのおねがい　地雷ではなく花をください　自由国民社
・地雷と聖火　クリス・ムーン　青山出版社
・中学生の道徳　自分を考える　あかつき